

「若き女の告白」

河出書房 短編集に入っている。

昭和15年 当時の流行語 贅沢は敵だ うめよふやせよ 風の又三郎 民族の祭典
流行歌 蘇州夜曲

- N : 家出をする長女。家出をしなければならぬ事情が書かれていれば、自立する決意の大きさが迫ってくる。
- A : こんな作品が出るのだから弾圧された作品とはいえない。
父親には薄っぺらな著述。母親もおかしい。娘は、向上心がない。時勢に挑戦。検閲を試している。というところが意図しているところ。
- K : カモフラージュして読んだ意見。
- k 2 : その時代のデッサンとして読みたい。女子医専の話。
- M : 女中にしかなれない。嫁ぐよりもよその家庭に入って、違う家庭を見るのはよいことではないか。女学校を卒業する時は、大きな家に奉公。そのまま嫁いたら何も出来ない。
- O : 行儀見習い、近代になって良家の普通の娘が礼儀作法を学ぶ。良縁に片づく。戦後は、女中さんの仕事は評価されない。レジやデパートガールより女中になる。来る人がいなくなる。獅子文禄は芹沢と同じ時期に通う。「獅子文禄とその周辺」おもしろい。伝統芸術など無給で入って、そのものを掴む。
- I : 結婚は急いではいけない。母親は、父より娘を読めに出しがる。結論：母は卑怯。娘のことを心配しない。子供に感じられるようにするのは、おろかだ。
- O 2 : こんなことがある。母親の態度は理解できない。
- H : モデルがある。M教授は芹沢。新聞広告。大変美しい女性が現れた。身元を明かさない。上品だし、来てほしい。親が来たが帰らない。お母さんに反省してもらいたいから返りたくない。
- K : このような人があったのではないか。
- S : 女中さんになってなんでだと思った。
- K : もう少しもう少し読めたらと思った。自分の人生を変えるために。親を冷静な目で見ると判断。進歩的な女性だったのではないか？勇気を与える。
- M : 文子先生の話で成る程と思った。妹からの連絡、友人を通して証人になってもらう。謀反を起こしたなら最後まで対処があるのではないか。この後、どうなったのか？
- H : 大東亜戦争で疎開までいました。
- S : 両親の反省は、どうだったのか。
- K : 芹沢文子さんや岡玲子さんとは市役所にいた関係でよく知っている。
挿絵が綺麗な人だねということでこちらを選んだ。

：娘も年も一緒。家族構成が同じ。結婚してほしいと私は思っている。娘達がいなくなった分よく話すようになった。

H : 神の微笑みから入った。感動したが、この話を讀んだら感動した。二十過ぎの女性の決心は甘い。49ページの親からの自立が中途半端な決心になる。

A : O外国語大学のスペイン語学科。(参加者の紹介)

T : 話の展開のおもしろさを感じた。夫婦のあり方というものが如何に子供に大きな影響を与えるか。計り知れないものだ。

N : 女性としてどういう職業があると思ったか。昭和15年では、教員、紡績、看護婦など急に外に出ることはできない。良家のお嬢さんは外に出ることは出来ない。

T : M先生の人柄を感じて良かったと思った。娘は33になって母に「私を置いて結婚できるわねえ」と泣かれた。実際今の時代でもこういう事がある。心の進歩がないと思った。

Y : 今回も2回読んで内容はわかった。この女性は系統立てて行動していると思った。8年間女中をやった。多聞小学校のそばにいた。多聞小学校に遊びに行った。世田谷の女中を始めて3年間。東京で3年間、名古屋で2回5年間。どうしても家庭で食べていけないので食べるために女中に行った。良い人に恵まれて精神的に苦労したことはない。商売屋、重役、医者と教師、選んでその立場になったのではなかったのではないが。父には感謝している。どこかで芹沢先生が表れる。あまり好きな作品ではない。何となくいやな作品。

U : つまらない作品ねといいながら来た。

K3 : 高村さんが話したように。父母を見ていた。母のようになりたいとは思わなかった。学校に出たら次の日家を出た。鍊子さんの気持ちがよく分かった。

小谷：芹沢先生は自分は古典に読書が足りないと思い、古典の作品を讀んだ。私が源氏物語を讀んだのは女学校1年。浮き船。古典の解説が多くおもしろくない。戦争で家が焼けたあと父が私に谷崎潤一郎の訳した源氏物語をプレゼントした。アメリカに行つてアメリカ史を研究。ドナルド・キーンが京都に行つていた。コロンビア大学の角田先生に会つた。たった一人の女性のために家に呼んでくれた。日本では、敵性語ということで英語などを使わなかつた。危険視した。アメリカでは、角田先生は日本の古典、宗教哲学。食を失わなかつた。キーン先生に対する紹介状を書いてくれた。日本文学で何を気に入つたか。源氏物語。平和な時代では、人殺しが無い世界が確定する。日本は男性社会。男女の形態がちがう。ここに特色がある。アーサー・ヘーリーが英訳したものを讀んだ。司馬遼太郎よりもキーン先生の方が原書を読むのが上手。